

歴史ある看板を受け継ぎ 時代に即した改革で 社をさらなる高みへと導く

Company Data



片山建設株式会社

島根県鹿足郡吉賀町六日市 350 番地

URL : <http://www.katayama-kensetsu.co.jp>



本社増改築リフレッシュ工事中

代表取締役

片山 拓三



1940年の創業から、地域に根差し建設工事を手掛けてきた『片山建設』。積み重ねた業歴に裏打ちされた確かな技術力とノウハウで以て、地域社会の生活を支えている。そんな同社の三代目として改革を推し進める片山社長に、ダンカン氏がお話を伺った。

—まずは、『片山建設』さんの沿革からお聞かせいただけますか。

当社は、私の祖父が1940年に創業した『片山建設工務店』が原点で、途中戦禍によって一度閉業しましたが、1953年に事業を再開しました。その後、1986年に現在の社名である『片山建設』に変更し、法人組織として歩みを進めるように。改組から3年後の1989年に私の父に代替わりし、事業を拡充してきました。そうして昨年、父から私へと代替わりを果たし、現在に至ります。

—創業から、長く歴史を刻んでこられたのですか。

創業から数えれば78年間、地域に根差して、土木工事、建築工事、造園工事、

管工事、解体工事などに勤んできました。長きにわたって地域社会のインフラを整え、地域の皆様と共に歩みを進めてこられたことが誇りです。

—地域社会をずっと見守ってこられたのですか。片山社長は、学生のころから後継を意識してこられたのでしょうか。

いえ、正直なところ会社を継ごうという考えは全くありませんでした。とは言え、建設関係の仕事が身近にありましたから、私もその分野の勉強を深め、学業修了後はコンサルティング会社に就職して設計を手掛けていました。そうして日々研鑽を積み、仕事にもやり甲斐を持っていましたが、30歳を前に父から「帰ってこい」と言われまして。迷いはありましたが、長く歴史を紡いできた会社を守っていくことも、自分の使命のかなと思いついて、家業に入るように。そこから、現場で多様な経験を重ねてきました。

—なるほど。会社の舵取りを任せられるようになって、何か取り組まれたことはありますか。

組織体系を改めました。私の考えの根本に、“社員は宝”というのがあります。企業は人によって興り、人によって飛躍するのは道理で、人材を大事にすることが会社の未来につながると思ってい



ます。当社は長く歴史を紡いできましたが、その中では古い体質が残る部分もありました。人間も、長く生きる中で病気に罹ることもあれば、体内に老廃物が溜まる時もある。法人も同じで、長く続くほどに、どこかに必ず綻びが生じてきます。そこをきっちり治療し、改めていくことで、会社はまた力強く歩んでいけると思うのです。今までは会社のルールが曖昧なところもありましたので、改めて就業規則をつくったり、あるいは利益を社員に還元するべくボーナスを支給するようにしたり、様々な改革を進めてきました。また、会社のホームページも整え、会社のロゴを定め、会社案内も作成しました。それらの改革は、対外的な信用を高めるためでもあります。それよりも社員を大事にしたいからという思いが先に立ちます。社員が頑張ってくれるから会社が成り立つ訳で、社員に対する感謝は常に持っています。今後も、社員を大切にしながら人材育成に励み、上手く世代交代を図っていければと思っています。

(2018年2月取材)



「今後について、不動産事業を立ち上げ、会社の事業軸を増やしていくという展望を描いておられた片山社長。お若いながらも、洗練された経営観をお持ちで、何よりも社員さんを大切にするという想いが素晴らしいと思いました」

インタビューー ダンカン